

第1回匝瑳市まち・ひと・しごと創生市民会議 会議録

開催日時
平成 27 年 8 月 25 日 (火) 14:00～16:15
開催場所
匝瑳市役所議会棟第 2 委員会室
出席者
太田市長 委員長 鎌田元弘 副委員長 椎名嘉寛 委員 田邊久利、岩井清、浅井茂、長谷川茂、福井敬、伊藤充児 熱田信之、江波戸友美、加瀬功一 (事務局) 企画課：太田課長、大木主幹、伊藤主任主事 キタイ設計：平櫛、督
欠席者
八角勝義、大塚榮一

協議内容
<p>【会議次第】</p> <ol style="list-style-type: none">1 開 会2 委嘱書交付3 あいさつ4 自己紹介5 動画視聴 ～まち・ひと・しごと創生『長期ビジョン』『総合戦略』～6 議事<ol style="list-style-type: none">(1) 委員長、副委員長の選出について(2) 「匝瑳市人口ビジョン」及び「匝瑳市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の策定方針について(3) 策定スケジュールについて(4) 人口の現状について(5) 市民アンケート調査の実施について(6) その他7 地方創生に関する意見交換8 閉 会

協議内容

【議事内容】

(1) 委員長、副委員長の選出について、委員からの申出により事務局案を示した。事務局案のとおり、委員長を鎌田元弘氏、副委員長を椎名嘉寛氏に決定した。

(2) 「匠瑛市人口ビジョン」及び「匠瑛市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の策定方針について、資料に基づき事務局から説明した。

《質疑》

委員：具体的な施策が必要ではないでしょうか。どこの地方でも人口減少対策として、雇用対策など同じようなことを行っているはずです。地域間競争が激しくなる中で、どれだけ具体的な施策が行えるかにかかってくる。行政は枠の中でしか考えられない。あれは無理だ、これは無理だとなってしまう、結局、市民側では手を打てなくなってしまう。まずは構造的な枠を取り外して行わないと、具体的な施策や数値目標の達成はできません。

委員長：ありがとうございました。事務局から意見はございますか。

事務局：貴重な御意見、もったもだと思えます。行政の枠を取り払って検討しても、予算であったり、壁であったり、自由に施策を展開するのは難しいところもあります。新生匠瑛戦略会議の中で市長からも「今までの殻を破れ」と言われておりますので、頑張ってやっていきたいと思えます。市民会議は市民の皆様にご意見を聞き御提言を頂く場です。行政がなかなか殻を破れない中で、市民会議の皆様から意見を頂き、参考にさせていただきながら、足腰の強い総合戦略を作りたいと考えています。

委員長：新生匠瑛戦略会議の合い言葉で、「自分ごとのまちづくりをしよう」というものがありました。行政が施策を進めるように、住民側は「自分ごとのまちづくり」として考えようということです。市民会議の中で、PDCAサイクルのPlanについて、計画を組み立て策定し、産官学金労言の様々な立場から、Planを実行(Do)することにより、それぞれの役割の方々が取り組みを進めていただきたいと思います。

委員：まち・ひと・しごと創生について、今の状況は白紙だと考えています。あらゆる方法やアイデアについて、何でも良いという段階にあります。このまま進めたとしても、柔軟さが欠けていくのではないのでしょうか。本会議の目的を忘れないことが、第一の出発点だと思います。我々も行政も市民の皆様も匠瑛市を発展させるために何が必要か、意見交換できる状態になったと思えます。

委員長：今後、アンケート調査等の意見交換の時間もあるようですので、その中でも御意見をお願いします。

協 議 内 容

事務局：新生匠瑳戦略会議ではオール匠瑳で取り組んでいくとの意見がありました。まち・ひと・しごと創生総合戦略について、意見を頂きながら、市の方ではキャッチボールを行い、だんだんと計画を作り上げていきたいと思っております。よろしく申し上げます。

(3) 策定スケジュールについて、資料に基づき事務局から説明した。

《質 疑》

委員長：資料についていかがでしょうか。

委 員：次回の市民会議について、9月の予定となっています。できることから、皆様の予定を事前に聞いていただき、調整すれば、出席率が上がるのではないのでしょうか。御配慮賜りたいと思っております。

委員長：事務局でも、できるだけ調整をお願いします。

(4) 人口の現状について、資料に基づき事務局から説明した。

《質 疑》

委員長：資料についていかがでしょうか。

委 員：策定方針の中に、雇用創出や定住促進がありました。既に行った新生匠瑳戦略会議の中で展開された様々な施策の成果と課題があると思っております。数年前と同じ施策とならないために、転出超過が進んでいる要因は何なのかなど、分析した資料として提示する必要があります。

委員長：匠瑳市では、どの産業がどれくらい強いのか、ビッグデータ等を活用して提示してほしいと思っております。

事務局：人口減少や少子高齢化への対策として、転入者マイホーム取得奨励金制度を設け、最大100万円の補助を行っています。従前まで行っていたものを平成27年度から拡充しております。効果検証については時間を頂き、資料として提出したいと思っております。RESASについても、データは取れますので、次回有効に活用したいと思っております。

(5) 市民アンケート調査の実施について、資料に基づき事務局から説明した。

《質 疑》

委員長：アンケート調査についてある程度まとまっているようです。集計後のクロス解析などを含めて、アンケート調査についていかがでしょうか。

委 員：結婚・出産・子育てに関するアンケート調査のうち、問7に「未婚」を選択する方は、どのような方でしょうか。また、アンケート調査の対象について、12歳以下の子どもを持つ母親に限定した理由は何でしょうか。性別に限定することなど、配布先が偏ることはありませんか。

協 議 内 容

事務局：ケースが少ないと思いますが、「未婚」で子どもがいる場合があり、広く聞くこととしています。アンケートの対象については、出産を伴い育児に手がかかる12歳以下の子どもを持つ母親を対象にしています。

委員：アンケートの中に婚活の設問がありますが、今後市の婚活に関する企画に生かしていくことを考えると、性別を分けずに行うことも良いかと思いました。回答についてはそれで結構です。

委員長：婚活について対象を広げるという考えはいかがでしょうか。

事務局：匝瑳市で婚活のイベントを年4～5回実施しており、参加者にアンケートも行っていますので、活用できると思います。

委員長：地方創生にとって子育て中の方の意見が重要です。アンケートでは拾いきれない現実的な内容を女性に聞き取りすることが必要ではないでしょうか。少人数でも子育て中の方を紹介いただき、意見を聞くことが具体的な取組につながります。委員の皆様のお近くの方にも御意見を聞いていただきたいと思います。

委員：転入者のアンケートで、Iターン、Uターンなどの傾向はわかるのでしょうか。

事務局：転出入調査の中で、問6～7・問12など、今までの居住地、匝瑳市の居住履歴、今後の匝瑳市の居住意向などから傾向を探ることはできます。

委員長：窓口で転出入者の特定はできるということです。

委員：アンケート調査について、最大限回答数を確保し、活用できるようにしていただき、十分な効果を表していただきたいと思います。

事務局：特に転出入者へのアンケートについては、市民課の窓口で直接手渡しし、趣旨を説明し、丁寧に行いたいと考えております。

委員：今までこういった趣旨のアンケートを行ったことがありますか。住みにくいという否定的な回答があった場合に、その理由を具体的に調査することはできますか。

事務局：以前行った転出入者のアンケートは、調査用紙を置いて、自由に回答協力していただける方からのみであり、半年で20前後の回答数という結果でした。

委員長：住んでいた方がどうして転出したかの要因については、詳しく知る方法はありませんか。

事務局：転出入者アンケート問11の一覧表の中で細分的に調査を行うこととしております。その他の項目で、自由に回答を頂くスペースもあります。

委員長：委員の皆様は、高校生アンケートについても見ていただいているでしょうか。

委員：確認しております。

協 議 内 容

(6) その他

委員長：事務局から何かありますか。

事務局：特にございませぬ。

7 地方創生に関する意見交換

委員長：一言ずつ参加者から意見を頂きます。

委 員：雇用の創出ができれば、子育て支援も人口減少も解消できると思います。雇用創出に対しては、地域特性を活かした新しい産業を創出する必要があります。匝瑳市の強みは、農業であり、活性化の仕組みやシステムをつくる必要があります。匝瑳市には産業祭りはありません。みどり平工業団地の23社が何を作っているのか市民は知りませぬ。

委 員：みどり平工業団地の数社が高校生に雇用案内していますが、残念ながら地元からの申出がありません。成田や鹿島の方に行ってしまします。実際、役員7名のなかでも、みどり平工業団地同士でも何をやっているか知らないのが現実です。職業イベントの準備をして、市民の皆様にはわかっていただけるような働きかけを検討しています。

委 員：匝瑳市に人を呼び込むために何が必要かを考えることは大事です。国、市の政策は、数多く無限にあるため、事務局から「地方創生の具体的な政策(国)、市が今まで行ってきた施策、今後行おうとしている施策」の優先順位について、先を急ぐわけではないが、勉強する時間が、それぞれに必要なだと思します。私が準備してきたものもあります。御理解いただければ有り難いです。

委員長：手書きでも御協力いただいて、配布いただければ有り難いです。施策をリストアップしてパッケージ化していくことが大事です。

委 員：わからないことが多く、意見を出すのが難しいところです。例えば、議題やテーマを絞って話し合うのがやりやすいと思します。自分も勉強していきたいと思します。

委 員：区長会では農業をやっている方が多いですが、後継者がおらず、70歳でもやっている人が多いです。農業には後継者ができず、衰退していつてしまします。匝瑳市の地方創生にはどのような対策を行っていくのが重要になってきます。結婚・出産・子育てについても、農業をやっていると、結婚できない人が多く、女性が農業を好まない傾向もあります。女性も経済力があり、自分で生活できる女性が多くなっています。子育てを面倒がる方も多く、価値観が変わってきているため、非常に難しい問題だと考えています。

委 員：匝瑳市ならではの特化できるまちに変えていくことが重要です。例えば自動販売機に防犯カメラを設置するなどの取組、障害者の人工肛門

協 議 内 容

の利用などが議会に意見で出ていました。今後、家計を支えていくことが重要であり、施策をパッケージ化することで、皆様と意見を深めていければと思います。

委員長：次回はワークショップ形式で取り組んでいくことで、無限にある施策について、どのように組み合わせて、パッケージ化していけるか、具体的に踏み込んでいければと思います。

委 員：総合戦略の4つの視点が重要ですが、匠瑤市になって10年、匠瑤市内の地域連携にどのような課題があるか把握し、近隣市町村の取組を参考にしつつ深めていくことが重要です。地域創生については各市町村で一斉に業務が行われているので、これからの状況について意見交換をしていく必要があると思います。

委員長：金融機関では、多くの地方創生に関わっていると思いますので、ネットワークを活かしていただければと思います。

委 員：地方創生施策には、お金を継続的に確保する仕組みが必要です。たとえば東京ディズニーランド(のようなもの)が1つあれば大きく変わります。そういった視点が必要と考えます。

委員長：パッケージやアイデアがあればお願いしたいと思います。

委 員：職業を小さな子どもに紹介し、匠瑤市にもこのような仕事があることをすり込んでいくことが大事です。商工会、警察、介護事業所と協力して平成25年度からイベントを開催しており、今後も継続していきたいと思います。政府が人口減少対策に動き始め、かなり前から施策がたくさんできていますが、人口は減っています。非常に難しい問題であり、人口を増やすことは簡単にできません。減少幅を少なくすることも、非常に難しいです。何に優先順位をつけて行っていくのか、議論をしていきたいと思います。

委 員：地方創生の中でPDCAサイクルのうち、PとDのあとのCheckがどれくらいできるかで、次のステップを踏むことができます。アンケートについても、時間を割いて、細かくデータ分析を行い、進めていただきたいと思います。

委員長：アンケートについては、可能な限り内容を詰めていきたいと思います。次回はワークショップ形式で、横断的な意見交換ができればと思います。テーマや進め方について、具体的な提案がありましたら、事務局に言っていただきたいと思います。次回開催日について、お願いできますか。

事務局：事務局案ですが、次回は9月16日(水)、14:00から開催したいと考えています。ワークショップ形式で行い、いろいろな議論をしていきたいと考えています。御都合よろしければ9月16日でお願いしたいと思います。

委員長：たとえば匠瑤高校の出身の学生が何人かいれば、皆さんと意見交換し

協 議 内 容

ながら話をできればいいと思っています。少人数で分かれてテーマに沿って、生産的な進め方があれば、早めに事務局に言っていただければと思います。

事務局：匝瑳市独自の色を戦略に反映していきたいと考えています。匝瑳市の強みや弱みについて、あぶりだしていきたいと考えています。

委員長：これで事務局に返したいと思います。

事務局：次回は9月16日(水)、14:00から開催します。ワークショップ形式で行い、委員長からも学生が入った形を提案していただいています。匝瑳市情報公開条例により、本会の議事録については、ホームページに公開させていただきます。御了承よろしく申し上げます。以上をもちまして、閉会いたします。ありがとうございました。

以 上